

## The 9<sup>th</sup> Asian Society of Sport Biomechanics 2023 事後報告書

生命環境科学系 中澤研究室 博士1年 秤谷名鷹

私は、広域科学専攻による2023年度「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」からご支援いただき、8月30日から9月1日にかけてタイ王国はバンコクで開催されたThe 9<sup>th</sup> Asian Society of Sport Biomechanics 2023（以下、ASSB）という国際学会に参加し、口述発表を行った。ASSBは2006年に韓国で発足された学会であり、スポーツやリハビリの分野においてバイオメカニクスを専門とする研究者や学生、指導者が交流する場として2年に1度の頻度で開催されている。

私は「Characteristics of Snatch high pull with switch movement on muscle and joint movement pattern」というテーマで口述発表を行った。ウエイトリフティングのエクササイズに関して、現場レベルで行われている動作の特徴を定量し、経験則で語られている部分を科学的に明らかにした研究である。渡航前から英語には苦難を強いられることが予想されたが、中でも質疑応答の場面は悔やまれる。英語のネイティブスピーカーも多くはなかったことから、学会全体的にわかりやすく英語を話してくれていたにもかかわらず、私は質問を聞き違えてしまった。司会の方に助けられてなんとか切り抜けたものの、英語で議論することができない状態ではスタートラインにも立てないことを実感した。

一方で、今回が国際学会への初めての参加であったが、現地での生活は非常に充実していたように思う。日本の大学で学位をとったタイ人の助教や大学院生の友人がいたため、大会長であるDr.Weerawatをはじめとする運営に携わっている多くの方にご挨拶する機会もいただいた。また、他国の大学院生や助教の方など若手研究者の方とも交流することができ、国際的に活動する意義と楽しさを学んだ。「論文として出版されることを楽しみにしているよ」という言葉掛けをいただいた時には、心の底から嬉しく興奮した。本学会への参加は、これからも研究を続ける上で大きな糧となり、さらに研究活動に邁進しようと思わせてくれた。

最後に、このような支援をいただいた広域科学専攻による渡航助成に感謝を述べて、報告を終わりたい。



左：被助成者が研究発表を行っている様子

右：大会場の様子